

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773800034		
法人名	社会福祉法人 久仙会		
事業所名	まがい友遊苑		
所在地	沖縄県島尻郡久米島町字真我里366番地		
自己評価作成日	平成23年12月19日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4773800034&SCD=320&PCD=47
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・居室ごとに壁紙やカーテンの色を変え入居者がわかりやすいようにしている。 ・入居者のトイレは全て車椅子が使用できるようにし、またシャワーも設置しているので失禁があった時でも、すぐ対応できるようにしている。 ・余暇活動ではゲーム・カラオケ・体操等を実施し、入居者が充実できるよう工夫している。 ・毎食前には誤嚥事故の予防と食事がおいしくいただけるように嚥下体操を行なっている。 ・地域行事への参加、ドライブ等で外出の支援やレストランなどでの食事会を実施している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>島内唯一の当事業所は、道を隔てた浜辺と、北に小川を擁し、西に望む銭田山のたおやかな稜線の麓近くに佇む。全室バリアフリーで、各部屋の中心に大きな広間がある。設立から6年目の今年度はスプリンクラーの設置や、資料整理に取り組んでいる。療育音楽や臨床美術等も利用し、入居者の思いや、ニーズにすぐ応えられるよう詳細なアセスメントを行い、魅力と活力の或るプログラムを展開している。画一的な設えにならないよう各室の壁紙やカーテンを変化させ、入居者の物品を規制せず、自宅で寛ぐ雰囲気への支援を行う。防災面では、初期消火の日常的訓練、AEDの設置、年2回の消火訓練や、火災報知機、各部屋からの呼び出しベルが取り付けられている。住宅地から離れた環境にあるが、地域の繋がりを常に意識して、地域に積極的に出向き、行事参加や、世代間交流を目指した事業所独自の催事を行っている。個人の尊厳に重きを置く事業所の理念は丁寧に実践されており、今後地域のリーダーとして認知症の人々を幅広く支援できるよう期待する。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念があり利用者、家族、職員が見えやすいように玄関に掲げてある。また、勉強会などで理念について考え、今後の取り組みについて話し合っている。	母体法人の共通理念で基本的な姿勢を身につけ、当事業所に於いては、地域で安心して暮らし続ける為の拠り所とした独自の理念を掲げている。玄関やホーム通信、パンフレット等、身近で理念に触れることができ、職員は理念を共有し、実践を通して引き継いでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ハーリーや町敬老会等、地域行事へ参加することにより入居者と地域のつながりを大切にしている。	事業所はコミュニティセンターとグラウンド(ゲートボール場)に隣接し、入居者がゲートボールの見学や応援をし、参加者がトイレを借用する等で行き来している。また、事業所周辺の草刈等の機会の他、地域行事には積極的に参加し、小学生が訪問したり、双方で接点を持つよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、地域包括センター、居宅支援事業所、公立久米島病院等との情報交換を行い何が必要なか話し合っている。久米島町介護サービス事業者連絡協議会へ参加し高齢者・障害者の支援向上に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みの報告や施設が抱えている問題等話し合い参加者の意見を求めている。	運営推進会議行政・母体施設・家族・管理者・民生委員等、全員参加できるように時間を調整して日中に開催している。事業所の運営や活動状況の報告をし、委員間で質疑応答し、議事録も詳細に記録されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政、地域包括センターには相談し、サービスの向上に努めている。	生保手続き、介護認定更新等、市と連絡を取りながら行動している。市担当者や、包括センター職員が推進会議メンバーで、アドバイスや情報等を受けている。今年度は困難事例が少なく具体的な相談機会は殆ど無いが、電話で連絡は取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会要綱に基づき身体拘束を行っていません。居室、ベランダ、玄関の施錠も行なっていません。	職員は、法人内研修や勉強会等に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、ミーティングでマニュアルの読み合わせやヒヤリハット等を振り返り、具体的に話し合い、職員間で意識を高め共有している。玄関の施錠はなく、家族が自由に出入りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止及び関連法案について勉強会を行い虐待の防止に努めている。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書及び重要説明事項の内容について説明し、説明後に疑問点などが無いか確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	宛にも苦情相談を設置し、また玄関にも苦情相談機関名と電話番号を提示している。 玄関にはアンケート用紙と意見箱を設置し、ご家族や来園者からの意見が反映できるようにしている。	入居者の意見は直に、家族からは、訪問時に何か不満や要望はないか聞いている。また、運営推進会議に2人の家族が出席し、発言の機会としている。事業所玄関にアンケート箱も設置しているが、今後は更に、家族の意見等を把握する方法として、アンケートの実施を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やケア会議等で職員から出た意見は業務に反映している。	職員会議で出た意見やアイデアは、全員で熟慮と検討を重ね、管理者が集約し理事会に提出している。意見等を反映し業務改善した事例として、入居者との関わりをより深く持ち充実を図る為に、清掃業務に従事するパート職員を採用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については毎年、昇給を行い。年2回の賞与を支給している。また職員には資格に応じて資格手当でも支給している。 職員には向上心を持って働けるように本部では、資格取得助成金を設けるなどの環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に合わせ、内外の研修に参加させている。 職員には資格取得助成金を利用し、資格の取得を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所主催の研修会がある時は率先して参加し、サービスの質の向上に努めている。 町介護サービス事業者連絡協議会へ参加し、意見交換などし、交流を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初はなるべく職員がつき、ご本人からの要望を聞きながら、他の入居者とのコミュニケーションが取れるよう配慮し、施設での生活に慣れてもらえるようにしている。。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が、何を求めているのか、何が不安なのか聞き、施設でできる支援を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のニーズの把握に努めておりまた、ご家族が入居者の病院受診の対応が困難な時は宛で病院受診対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	方言や昔の風習を教えてもらったり、一緒に洗濯たたみやもやしをつくらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設行事へ参加されたときや、面会でこられた時など入居者の状況をご家族に報告し、ご家族にも意見を聞いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブを行なったり、買い物に出かけたりしており、また顔見知りの方と出あった時は、ゆっくり話ができるようにしている。	入居者が築いた関係性を大事に、行きたい所や会いたい人等との関わりを支援している。法人の夏祭りやイルミネーション見物、地域の行事に参加して知人や友人に会える機会を増やしている。ドライブは入居者が希望した時に出かけ、途中で自宅を見たいとの要望にも柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をみながらリビングのテーブルの席の配置を調整したり、また状況をみながら職員が間に入ったりしている。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	島内でのさまざまな場面で出会う事が多々あり現状の話をしたり、行事への案内をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向の把握に努めながら、ご本人の希望が困難な場合はご家族も含め話し合いを持ち今出来ること、出来ないこと等を話し合いしながら今後の検討事項としている。	入居者との日々の会話から、思いを把握するよう努め、困難な入居者は家族から情報を得ている。また、入居者の生活歴を時系列で詳細にアセスメントし、表出が困難な入居者も、その時々々の流行歌や話題を提供すると表情に笑みを見せることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境に近づけるよう馴染みの家具の持込や、趣味の活動の支援を行っている。また、ご家族・親戚の方からご本人の生活歴を伺ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	洗濯たたみや、食器拭き等の役割を持ってもらい出来る範囲内はなるべくご本人にやってもらい状況をみながらご本人が困難な時はスタッフが支援を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族及び必要な関係者と話し合いながら作成をしている。	入居者の介護計画は、モニタリングを通して把握した課題を家族等も交えて検討し、随時や定期的に見直して詳細に記録している。例えば、自立心の強い入居者の行動が消極的になった要因を、排泄の状況を観察して職員間で検討を重ね、布パンツから紙パンツ使用に繋がったことで、入居者の表情や行動が元に戻っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での変化や気づきは個別記録に記入し、職員間でも情報を共有しながら介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に応じ、役場での入居者の書類の手続きやご家族が入居者の定期受診対応が出来ない時は施設で定期受診の対応を行なっている。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張理容サービスや行事の際はボランティアを活用し、入居者が豊かな暮らしができるよう支援を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援を行っている。	馴染みのかかりつけ医を受診し、通院は家族が高齢のため職員が対応している。受診時は情報提供書を持参して情報交換し、主治医からの指示は診療結果とともに家族に報告している。歯科等の他科受診も、適切に受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員による健康チェックを週1回実施し、介護職員への指導や助言を行なっている。入居者の体調変化がある時は、看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院したさい、病院と情報交換をしている。また主治医との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い当宛で出来ること、出来ないことについて説明を行い、職員には緊急時の対応について話し合っている。終末期マニュアルを整備し、入居者・ご家族のニーズに応えるよう努めている。	運営規定に「重度化した場合における対応の指針」を明示し、入居者や家族、関係者が統一した方針を共有している。重度化に伴う意思確認書も作成し、状態変化に応じて繰り返し話し合いを持ち、家族や医療関係者が連携して支援できるよう整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人本部と協力し勉強会や訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防とは協力し、年2回の避難・通報・消火訓練を実施している。	今年度は入居者の協力を得て、事業所内にプリンクラーを設置している。設置後に消防署協力の下、消火や通報、避難の訓練を2回昼夜を想定して実施している。災害マニュアルや緊急通報装置等の防災機器を整備しているが、食料品などの災害用物資の用意がなされていない。	離島という立地もあり、非常災害時に備えた備蓄の充実を図ってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを尊重を第一としている。 離床時身だしなみに気配りをしたり、汚染オムツは新聞紙に包んでから捨てる。	入居者の離床時の身だしなみを整えたり、入居者の思いを尊重し、声かけもプライバシーを損ねないように対応している。入居者個別の記録簿等は、施錠できる事務室で管理している。排泄等も失敗を招かないように全職員が排泄パターンを把握し、さりげなく声掛け誘導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に入居者の意向に聞き支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出・散歩・買い物・入浴・食事など入居者の希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えるさいは、ご本人の意向を聞きながら対応を行なっている。 理容サービスは定期的にボランティアの方が来苑し、対応を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る時は、入居者の方々にも料理の本を見ながらメニューを決めたりしている。 もやしの根取りなどや食後の食器拭きを手伝ってもらっている。	入居者は調理作業に応じて個別に、職員と一緒に野菜の下ごしらえや味見等に参加している。時には、入居者と職員で料理の本を見ながら「三枚肉が食べたい」等と、各々の希望で献立を決めている。食事は、職員も入居者と一緒にテーブルを囲んで摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量をチェックし、食摂取量の減ってきている方はご本人が食べやすいように食事の工夫をしたり、好きな物を提供したりしている。 水分摂取についても摂取量の少ない方は野菜ジュースやスポーツドリンク等で工夫を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者の方には、口腔ケアの促しや誘導を行い口腔内の衛生保持に努めている。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、トイレ使用が可能な入居者は積極的にトイレ支援を行なっている。	オムツ使用の利用者も日中はトイレへ誘導し、自立に向けた取り組みから2名の利用者が綿パンツにパット使用迄に自立している。さりげない声掛けを行い支援している。トイレはドアの内側にカーテンを設置しプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の入居者の方には水分摂取の促進、食物繊維(野菜・野菜ジュース等)を摂取に力を入れたりしている。 トイレでは腹圧かけるなどの排便支援を行なっている。排泄チェック表を確認しながら便秘が続いている方は下剤などで調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表確認しながら入浴対応を行なっているが、ご本人が入浴を希望されるときはそのつど対応を行いました、入浴を拒否される方についてはタイミングを見計らいながら再度声かけを行いながら入浴支援を行なっている。	入浴は、週2~3回入居者の希望で支援している。拒否の場合は時間をずらしたり、タイミングを見ながら臨機応変に対応し清潔保持に努めている。職員は日頃から入居者との関係作りに努め、楽しんで入浴してもらえるよう言葉かけを工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜、眠れない時には湯茶サービスを行ったり、話し相手をし入居者の精神の安定化を図り眠れる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬が変わったさいは、申し送りノートに記載し、職員間で情報を共有し、処方された薬の説明書を介護記録に綴り職員がわかりやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	健康体操やレク活動で入居者が楽しく過ごせるようにしている。 野菜のつくろい、洗濯たみ、食器拭き等手伝ってもらい入居者の役割作りをしている。 地域の行事の参加やレストランでの食事会などで気分転換の支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、散歩など宛外に出られるよう支援を行なっている。	暖かい日は事業所隣のグラウンドに散歩を兼ねて出かけ、地域の高齢者グループ等のゲートボールを観戦している。入居者個別に買い物や自宅での法事等に送ったり、ドライブで娘の店舗近くへ出かける等希望に添って支援している。	

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方がお金を持つことに関しては職員は理解をしているがお金の所持についてはご本人で管理できる方に所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望がある時はその都度、対応を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間での光量やテレビの音量はその状況に応じながら職員が調整を行っている。	玄関は広く室内はバリアフリーで、明り取りの高窓、3箇所のトイレと手すり等、環境に配慮した共用空間となっている。季節の花を生け、キッチンからは調理の際の音や匂いが、入居者の五感を刺激している。晝間も設え、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は仕切りなどで工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や好みの物を居室に入れ、ご本人がくつろげる空間作りを行っている。	居室は、冷蔵庫や仏壇、賞状や家族写真等、馴染みの物等を個性的で自由に配置し、入居者個々の居室にしている。日差しを和らげる為の簾を、クバの葉を利用して職員と一緒に作り掛けている。夜中落ち着かない入居者に安心感が戻るまで、職員は居室内で寄り添い過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口にはご本人の写真と名前を提示し、ご本人の居室がわかりやすいように配慮している。		